



書評

[評者]

原田 拓

練馬光が丘病院総合救急診療科総合診療部門科長

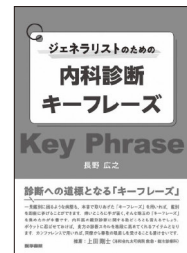
ジェネラリストのための 内科診断キーフレーズ

長野 広之 著

●A5 頁336 2022年4月

定価：3,850円（本体3,500円＋税10%）

[ISBN978-4-260-04923-8] 医学書院刊



著者の長野広之先生は、現在、日本病院総合診療医学会若手医師部会副代表、日本プライマリ・ケア連合学会若手医師部門病院総合医チーム2代目代表を務められています。キャリアとしては上田剛士先生のいらっしゃる洛和会丸太町病院で研鑽を積まれた後、現在は在宅臨床をしつつ京科大学院医療経済学分野の博士課程で研究に邁進され、SNSでも積極的に情報を発信されているという、臨床も教育も研究もすべてできる、まさにこれからの総合診療医を牽引される先生です。こうしたバックグラウンドから生み出される、アウトプット特集、腎盂腎炎特集、在宅医療×病院特集と、現場最前線で臨床に取り組む医師の琴線に触れる雑誌特集企画を連発されている長野先生の著書が面白くないわけがない、ということと読ませていただきました。

本書は医学書院の総合臨床誌『medicina』で好評を博した鑑別診断の連載企画が基になっており、一言で言うと、「即日で鑑別診断能力の数も質も向上する」、そんな構成に思えました。さまざまな診断カンファレンスで無双の強さを示す長野先生が、その経験から導き出された「数多ある情報から診断につながる特異的な情報をピックアップす

る」という視点で執筆された、日常診療で役立つ内容になっています。

例えば「CRP 上昇に乏しい発熱」「遅発性アナフィラキシー」「リンパ節腫脹、腫瘍が目立たない悪性リンパ腫」「治らない肺炎」「原因不明の脳梗塞」……このキーワードだけでワクワクしませんか？ どれも内科診療をすれば必ず出会い、そして症例によっては辛酸を舐めた方もいると思います。本書で挙げられている鑑別診断リストは、教科書には載っていないけれども実用的であり、非常に魅力的な内容になっています。

本書の特徴は魅力的な鑑別診断リストだけではなく、わかりやすい病態ベースの説明、豊富な参考文献、使いやすい索引、鑑別診断リストをPDFで閲覧できるWeb付録もあり、書籍の内容を理解しやすい・使いやすいユーザー視点の仕様が盛りだくさんです。一周読むだけでも学びになり、二周読めばさらに学びが深まります。主だった症候の鑑別がわかってきたぐらいのフェーズの若手にも、若手を教育する立場の指導医にも、珠玉のパールがちりばめられた総論ともあわせてジェネラリスト必携の一冊です。